

大人の発達障がいへの支援について

1. 高校生への支援

(1) 支援体制サポート強化事業

①実施校

令和2年度(募集3校)	令和3年度(募集3校)	令和4年度(募集5校/実施6校)
静岡県立静岡高等学校定時制 静岡県立静岡中央高等学校定時制 静岡県立科学技術高等学校	静岡県立静岡中央高等学校定時制 静岡県立静岡高等学校定時制 静岡県立科学技術高等学校	(新)静岡県立静岡城北高等学校 (新)静岡県立静岡商業高等学校 静岡県立静岡中央高等学校定時制 静岡県立科学技術高等学校 静岡県立静岡高等学校定時制 (新)静岡県立静岡中央高等学校 通信制

※アンケート結果:「本事業で話し合った支援方法を実施できた」令和2年度 3.67→令和3年度 4.33

②現状と課題

- ・県立高校では教員の異動が県域のため、「きらり」の活用が途切れやすいため継続的な広報が必要。
- ・教員が本事業で得た支援方法を、異動先でも実践できるよう小中学校とは異なる支援が必要。
- ・単年での取り組みになってしまうため、校内の基本的な支援体制を構築し、支援体制が引き継がれる取組みが必要

(2) 通信制・サポート校向けワークショップ「わたしのトリセツ」(1講座3時間)

- モデル実施:通信制高校1校をモデル校に年3回を実施予定
- 進捗状況:6月14日(火)25名(15歳から20歳)の生徒を対象に3時間のプログラムを実施

<アンケート結果>

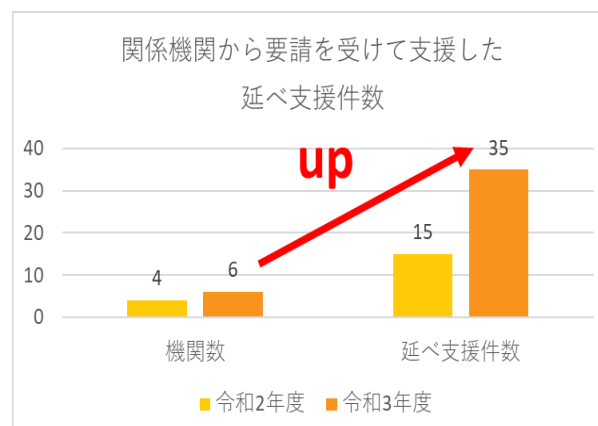
満足度	内容の満足度(5段階評価) 4.1点(満足したと回答した平均点) 時間の満足度(5段階評価) 3.8点(長かったと回答した平均点)
感想	<p>自分を理解するのに役立つ 80% 自分の得意なことが分かった 40% 自分の苦手なことが分かった 32% (自由記述)</p> <p>○ 自分のことの理解が講座を受ける前よりもっと深まったと思う。これから生きていく上でとてもためになる講座だった。</p> <p>○ 自分の得意なことなどしっかりとわかったし、苦手なことは対策も知れてとてもいい時間だった。</p>

トリセツ作成を通して、自分を整理する視点を身につけられた。一方でトリセツの8項目中3項目の作成としたため、全ての特性項目を網羅できなかった。

2. 成人期への支援

(1) 相談支援について

- ・関係機関が発見・把握をしたケースについて、要請を受けて協働で支援しており令和3年度に連携した関係機関数は4機関から6機関へ増加、延べ支援件数は15件から35件に増加した。
- ・関係機関の中でも、静岡市ひきこもり支援センターから要請を受けた延べ件数は、令和2年度12件から令和3年度27件と増加しており、支援が必要な方をとりこぼさないようネットワークのひとつを担っている。



(2) 就労移行支援事業所を対象とした支援体制サポート強化事業について

①現状

- ・ 高等学校や大学等を卒業後に、就職をしても当事者自身の特性理解でつまずき、職場から合理的配慮を受けられず仕事を継続できないケースの相談がある。
- ・ 巡回相談型であるため、業務の秘密保持等のため利用に慎重になる企業が多い。
- ・ 成人期においては、教育と就職のはざま、就職の一步手前を支援している機関にたいして、アウトリーチの視点を取り入れながら取り組んでいく必要がある。

②支援内容と課題

	令和3年度	令和4年度
支援内容	・発達障害特性の理解と支援	・発達障害特性の理解と支援 ・アウトリーチ型の当事者支援
課題と成果	(現状) ・様々な職歴の職員が在籍している中で、「発達障害」の捉え方と基本的な支援の方向性を認識した上で、支援方法を検討することができた。 (課題) ・当事者の同意は得ていないため、具体的な支援計画の作成のためのケース検討会に発展させることが課題。	(現状) ・本事業でも当事者の同意を事前にごいただいた場合、当事者への直接の助言もできるようにした。 (成果) ・本事業実施後に、職員からご本人へのフィードバックを実施。ご本人からは「良い点を見つけてもらったことは自信に繋がった」などの感想があった。

③令和3年度に本事業を実施した就労移行支援事業所のアンケートより

- ・ 日々の支援で本人の特性をわかっていたつもりでしたが、一般的な発達障害の方の特性を改めて教えていただく事で、本人の行動に対して納得する部分がありました。異業種からの転職者にもわかりやすい言葉で、専門的な視点から例を出しながら説明をしていただき非常に参考になりました。
- ・ カンファレンスをしていただくことで支援の客観性を保つことができ、毎回発見があります。

3. 研修について

企業向け研修を2社に対して3回実施。研修を実施した企業からは、発達障害の理解と職場での合理的配慮の検討に役立ったとの評価を得た。

4. 当事者会への参加

情報共有と情報交換を目的に定例会に3回参加。グループトーク等では、話題に対する助言等を行った